

発行所 若宮八幡社事務所
〒873-0004
大分県杵築市大字宮司336番地
発行者 宮司 紀田兼宣
電話 080(5503)3488

金鷹山 若宮八幡社 検索

神社公式ホームページ開設しております。御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう

きん たか やま 金鷹山

令和元年 金鷹山若宮八幡社例大祭齋行(詳細は4頁に記載)

●十二月七日(土)

午前 九時 例大祭(於 御本殿)
午前 十時 神輿お下り神事(御旅所に向かう)花火
午後 一時 みさき神楽奉納(於 御旅所)
神楽奉納料 一件一五〇〇円也

●十二月八日(日)

※神賑行事
午前八時三十分 長寿老人交通安全祈願祭(於 御旅所)
午後 一時 斗初穂奉納奉告祭(於 御本殿)
午後 三時 神輿お上り神事(御本殿に向かう)花火
※神賑行事
若宮杯グラウンドゴルフ大会
若宮杯ゲートボール大会
生け花展示(於拜殿) 露店多数出店

●両日 池坊別府中央支部奉納



社頭版画(井倉文夫さま奉納)

巻頭言

令和の御代を寿ぐと共に 斯界の言挙げを願う

▲この社報が刊行され、皆様方がご覧になるころには、天皇陛下の一連のご即位神事も恙無くお納めされている頃と存じ上げます。▲まずもって御皇室の彌榮を祈念申し上げる次第でございます。▲内閣が前から公表している通り、次には御皇室の将来について、審議が進められることと拝察致します。▲ご存知のように、現在の皇室典範等によると、将来の皇族方は秋篠宮悠仁親王殿下おひとりになってしまふことが、今後の大きな課題となつていく。▲この課題については、かの小泉内閣の折りにも所謂「女性宮家」創設という提案が為された経緯があつたものの、悠仁親王殿下のご誕生により、議論が立ち消えになつたことはご記憶にあることと存じます。▲しかしながら、この度令和の御代になつて、先帝陛下は一代限りという条件のもと、讓位ということが可能になられたが、次の御代替りについては現在のところ全くの白紙状態であると言つても過言でないだろう。▲ここに来て、「愛子内親王殿下のご即位論」まで世論から出る始末となり、まだまだ御皇室の行く末は決して御安泰といえる状況にない。▲斯界としても「女性天皇」と「女系天皇」はどう違うのか、何故万世一系の天皇を護持するため「男系男子」に拘泥するのか…ということを世論に対して展開するべきであろう。▲古来より、神社界には「言挙げせず」という言葉がある。▲祝詞の初めに「掛け巻くも畏き…」の文言に代表されるように、「言

葉にして申し上げることも洵に畏れ多いことではあります。…」との意味からも、敢えて言葉にせず、忖度しながら相手を慮るという文化が存在してきた。▲それは勿論大事なことであるが、国の危機には敢えて「言挙げする」ことも必要ではないかと、最近思い始めた。▲何故に「男系男子」でなければならぬのか、という疑問に対し、去る五月十五日(水)の産経新聞オピニオン版で、動物行動学研究家の竹内久美子氏による論文で、ストンと腑に落ちた。▲論文によると、我が国は女性天皇が八名居られたが、あくまでも「中継ぎ」としてのお役目でのことで、女系ではなかつたことをまず説明し、次に性染色体が、男性はXY、女性はXXによる遺伝子学上の理論を解き明かし、染色体も遺伝子学も何ら解明されていない時代から連続と、御皇室のYを男系として受け継いできたことを分かり易く説いている。▲人間の行動として、①行動を起す②無関心である③他人の批判ばかりする、の3パターンがあると思うが、これからはパターン①を率先していかないと国の行く末はどうなるかわからない。▲ましてや人のことをただ批判して対案を出さなければ、かの政党と同じでは…との誹りを受けかねず、きつと5歳の女の子「チコちゃん」に「ボーっと生きてんじゃねーよ!」つて叱られてしまうだろうなと思う今日この頃である。▲さあ皆の衆よ、言挙げせむか。

平成から令和への御代替りを寿ぎて
御皇室の彌榮を祈念申し上げると共に
若宮八幡社でも奉祝祭を斎行する

まずもって令和への御代替りに対し、謹んでお祝い申し上げますと共に、御皇室の彌榮と日本国の繁栄とを祈念申し上げる次第でございます。

去る五月一日(水)に令和の御代が始まりました

ことを寿ぎ、若宮八幡社に於きまして、「踐祚改元奉告祭」を斎行申し上げ、氏子崇敬者凡そ五〇名のご参列を戴き、聖寿の彌榮を祈念致しました。

皆様方もテレビの映像で、四月一日(月)に、菅内閣官房長官の掲げる「令和」の額を見て感慨を深くし、四月三十日(火)の「退位礼正殿の儀」では、先帝陛下への感謝の念を募らせた方も居られたことと存じます。



剣璽等承継の儀

そして五月一日(水)愈々令和の御代が始まり、「剣璽等承継の儀」や「即位後朝見の儀」をご覧になって、これからの日本国の将来に期待感を膨らませたことと思えます。

五月十三日(月)には、「齋田点定の儀」が卜定され、今秋に斎行される大嘗祭に於ける新穀を、悠紀国(東日本)は栃木県に、主基国(西日本)は京都府でそれぞれ作られることが定められ、黄金成す稲穂が過日、「齋田拔穂の儀」の斎行により刈り取られ、愈々大嘗祭をお迎えすることと相成りました。

去る十月二十二日(火)には、「即位礼正殿の儀」が行われ、天皇陛下におかれましては高御座におきまして、ご即位されたことをして、ご即位されたことを国の内外に広く宣言されました。



齋田点定の儀

若宮八幡社に於きましても、当日「即位礼奉祝祭」を斎行させて戴き、氏子崇敬者多数の参列のもと聖寿の万歳を捧げました。

そして愈々「大嘗祭」が、十一月十四日(木)から十五日(金)にかけて、皇居内の大嘗宮に於きまして斎行され、天皇陛下御自ら悠紀・主基両国からの新穀を神様に差し上げ、またお召し上がりにもなられます。

よって本年に限り、「新嘗祭」は斎行されず、若宮八幡社でも大嘗祭当日の十一月十四日(木)、氏子崇敬者からのたくさんのお酒・野菜果物が神様に献納の上、目出度く「大嘗祭奉祝祭」を斎行させて戴く予定でありますので、皆様方には是非ともご参列賜りますと共に、若宮八幡社の神様にお供え物を献納されますことを茲にお願ひ申し上げます。

尚、令和二年以降は今まで通り、十一月二十三日(勤労感謝の日)に新嘗祭を斎行致します。

来る令和十七年度(西暦2035年)に御鎮座1050年を迎える
若宮八幡社 その歴史を紐解いていく

若宮八幡社が、現在の金鷹山に鎮座されるまでの歴史を紐解いていきたいと思います。

人皇第六十五代花山天皇の御代、寛和元年(西暦985年)、五位下紀兼貞朝臣は勅宣を戴き、京都男山に鎮座する石清水八幡宮の四柱の御尊像を奉護し、豊後国速見郡八坂郷に下向。柏島(現在の錦江橋の上流)に鎮座されました。

その折に、川岸から上陸するのを介添えた人々の末裔が、現在「浜八人」として、例大祭の神輿渡御に際し、重要な所役を担って戴いております。

最初の鎮座地には、現在「浜田社」が鎮座されており、今も毎年十二月には例大祭が斎行され、また輪番での座祭りも執り行われております。

平成二十七年(西暦2015年)には、御鎮座1030年祭を寿ぎ、五十年ぶりに神輿が浜田社まで渡御され、来る令和十七年度(西暦2035年)に、御鎮座1050年祭をお迎えになります。



浜田社

その後、天喜5年(西暦1057年)の3月に八坂川を少し上流に位置する生地丸山の丸山に遷座(神様のお引っ越し)されました。

当時の八坂川とは形状が少し違うものと思われませんが、写真の「丸山」とされる所か、少し山手の方か現在、確実な比定地がありませんが、今後の古文書などを解明しながら、少しずつ2番目の鎮座地について理解を深めていきたいと思います。

幸いにして、当時のゆかりある家柄として、「生地家文書」が多数現存しており、下司の生地様には折を見て古文書の調査方々、取材をさせて頂ければと考えております。

この丸山とされる場所には、現在神社が鎮座されていないことは、誠に残念というしかありませんが、一日でも早い時期に旧鎮座地を比定して、御鎮座1050年祭の記念事業の一環として、境内地に一部編入の上、記念碑を建立していきたいと考えて居る処でございます。



生地丸山

更に時代は進み、承安3年(西暦1173年)9月に、中村の鬼籠瀬山に2度目の遷座が行われました。

若宮八幡社の牛馬市はここから始まったとされ、今でも中區には「市」という場所があるのは、その名残りとして残っています。

もともと神社は、もう少し山の上に鎮座されており、そこには旧八坂中学校がありました。

その影響で、山麓の場所に現在元宮として、「若八幡本社」が鎮座されており、毎年四月三日に春季大祭、十月二十一日に秋季大祭、十二月一日に例大祭が斎行されるのをはじめとして、六月(根付籠祭)、九月(御願成就)などの農耕神事も執り行われております。

そして、嘉暦元年(西暦1326年)十一月に、3度目の遷座を行うべく、高(鷹)山川の上流である、現在の金鷹山(別名愛宕山)に鎮座を迎え、爾来累代藩侯の氏神として尊崇篤く、この地域の御神威いやちこに亘らせられることを拝し奉ります。



若八幡本社(中區)

御鎮座壹千五拾年記念事業の一環として (仮称)「若宮八幡社史・紀田家文書」

編纂事業の現況報告と今後の展望

前記の如く来る令和十七年度(西暦2035年)に、当社は御鎮座1050年を迎え、これから随時、その記念事業を将来的に立ち上げることとなりますが、その一環として(仮称)「若宮八幡社史・紀田家文書」編纂事業を始めました。

現時点での状況としては、杵築市文化財保護課当局にご相談を申し上げ、ご指導を仰ぎながら、若宮八幡社に関する史料を集約している段階です。

幸いにして若宮八幡社には、大分県に無形民俗文化財として指定される「御田植祭」・「若宮楽の市」、天然記念物に指定される「金鷹山の自然林」、杵築市に文化財に指定されている「棟札25枚」・「境内石造物群」・「絵画類」などの多数の文化財を所蔵

すると共に、紀田家にも家系図をはじめ、古文書類が保存されておりあります。

人物としても、国学者「物集高世」「物集高見」「物集高量」の三方には若宮八幡社にゆかりありの方々に、他にも若宮八幡社の神官職として奉仕されて来られた方々も多数おられます。

また杵築市内外には、郷土史を研究される泰斗の方々も居られ、多岐に亘りご指導を戴いております。

具体的には、杵築市図書館、大分県立図書館、別府大学附属図書館に伺い、その他にも若宮八幡社に関する史料をすべてコピーし、その記録を「神社史」「地域史」「民俗」「文化財」「他家文書」「人物像」などの十数項目の分類ごとに仕分け、パソコンに一覧表として

記録しております。

この作業をこれから数年間かけて取り進め、若宮八幡社に関する史料集約がある程度進んだ時点で、「編纂事業委員会」を組織して参ります。

最終的には、令和十七年度に刊行する予定です。刊行までご一緒にお手伝い戴ける方がおられましたら、是非ともご参画賜り度存じます。

またご自宅に若宮八幡社に関する古文書・古写真などがありましたらご連絡下さい。

若宮八幡社についての昔懐かしい思い出話でも結構ですので、氏子崇敬者の皆様方と共に、(仮称)「若宮八幡社史・紀田家文書」を創り上げて参りたく存じますので、何卒ご理解とご協力のほどよろしく御願ひ申し上げます。



右の掛軸を顕彰した石碑



物集高見揮毫の短歌掛軸



御田植祭の古写真



往時を偲ぶ牛馬市

神道を宗旨とする「開運祖霊講」 永年の懸案であった祖霊社建立される

神道を宗旨とする方々で組織される「開運祖霊講」、永年の懸案事項でありました、「祖霊社」がこの度竣工し、去る三月二十一日(木・春分の日)に毎年恒例の春季祖霊祭に先立ち、「祖霊社新築工事竣工鎮座祭」が斎行されました。

従来、境内に祖霊社が無く、若宮八幡社の本殿に「祖霊講標柱」を臨時に設え、祖霊様をお迎えして、春と秋の彼岸中日に祖霊祭を斎行しておりましたが、本来あるべき祖霊祭を斎行するべく、遡ること平成二十八年三月春季祖霊祭後の開運祖霊講年次総会に諮られ、祖霊社新築に向けて取り進めが始められました。

神道を宗旨とする三十世



竣工を見た祖霊社

帯の「開運祖霊講」の運営としては、年に2回(春と秋の彼岸中日)に限定されており、限られた時間の中で、大分県神社庁及び神社本庁当局また大分県庁県政情報課との審議ご指導を賜りながら、凡そ三年間に亘る諸準備を経て、平成三十年九月二十三日(日)に地鎮祭を斎行し、この度の竣工鎮座祭に至った次第であります。

開運祖霊講の運営資金は、決して潤沢な状況ではありません。決して潤沢な状況ではありません。講員各位の寄付金と若宮八幡社からの助成金をもとに取り進められ、地元宮司区の建築会社による懇切また卓越した技術を以て竣工に到りましたこと、関係各位には紙面をお借りして厚く御



祖霊社竣工鎮座祭の様

礼申し上げます。この度の祖霊社新築に際し、講員各家庭の祖霊・霊璽(過去帳)を調査戴き、凡そ三百五十有余柱の祖霊様を新たな霊璽にお遷し申し上げ、竣工鎮座祭に於いて、御霊全員のお名前を奏上致しました。

以降につきましては、春秋の祖霊祭は今まで通り斎行することは勿論のこと、長逝された講員またご家族の御霊は、五十日祭・埋葬祭後の祖霊祭に於きましこととなります。

また、これからの少子高齢化、地方創生、終活や墓じまい等の社会情勢を鑑みて、新規講員の入会神道を宗旨とされる方(限定)や、境内の一角に納骨殿の建立も視野に入れ、神社総代や氏子崇敬者のご意見を伺いながら構築していければと思料しております。

開運祖霊講以外の方でも、神道を宗旨とされる方には、宮司が出向しての神葬祭や祖霊年祭なども承っております。

例大祭と年末年始のお知らせ 令和二年の初詣は若宮八幡社で

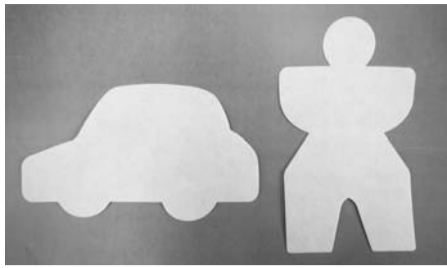
十二月七日(土)及び
八日(日)

例大祭

若宮八幡社で最重儀とされる神事です。平成二十七年には御鎮座壱千参拾年を記念し、元宮の浜田社(下司)まで五十年ぶりに神輿を巡幸致しました。昔は一週間に亘り牛馬市やサーカスなども開かれ、境内は多数の露天商で賑わっておりました。近い将来、往古を凌ぐほどの神賑行事も開催できるよう



神輿にお供をする幸領の方々



大祓人形と車形



伊勢神宮大麻と若宮八幡社大麻



御鎮座1030年祭では浜田社まで巡幸されました

計画して参ります。

- ・みさき神楽(一五〇〇円也)
- ・神輿お下りとお上り神事
- ・神賑若宮杯ゲートボール大会
- ・とグラウンドゴルフ大会
- ・池坊別府中央支部奉納生け花展示(於拝殿)

十二月三十一日(火)

午後五時

年越大祓・除夜祭

知らないうちに犯してしまつた罪や穢れを人形・車形に託して、清々しい令和二年をお迎えしません

か? 人形・車形は社頭でお頒ちしております。(初穂料 ひと家族千円) 伊勢神宮の大麻と若宮八幡社の大麻をお頒ちしております。

「大麻」といつてびつくりされるかも知れませんが、麻の御霊が白いお札(大麻)に込められております。神棚にお祀りするとき、包みである薄紙を剥がして下さい。(初穂料 八百円)

一月一日(水)
午前六時 歳旦祭

令和二年の始まりです。東京オリンピックが夏に開催されることを心待ちにしましょう。本年も神様のお徳を戴かれ、氏子崇敬者の皆様方が幸せでありますよう祈念します。

毎朝午前六時 朝御饗祭

若宮八幡社また境内の和漢將軍社、祖霊社の神々様に朝ご飯を差し上げる神事です。



正月の社頭風景

平成三十一年と令和元年の二年間を振り返り 来たる令和二年に想いを馳せて

一月一日(火)
元日・歳旦祭

平成三十一年の始まりです。大勢の善男善女が初詣に来られました。

一月二十七日(日)

第六十五回防災訓練実施

法隆寺消失の日に因み、毎年杵築市内の文化財施設で実施されており、地元宮司区民をはじめ多数の参加がありました。

四月六日(土)

祈年祭・御田植祭

秋の稔り多きことを祈念し、早乙女たちにより大分県無形民俗文化財である「御田植祭」が執り行われました。

五月一日(水)

踐祚改元奉告祭

平成から令和に御代替りしたことを寿ぎ、正午に花火を打ち上げ、五〇名の参列者と共にお祝いし、聖寿の万歳を行いました。



防災訓練の様



早乙女による御田植祭



若宮楽の市の模様

九月十五日(日)

仲秋祭・楽の市

元宮である京都石清水八幡宮の勅祭(例大祭)日を寿ぎ、神事を斎行、午後北杵築地区と地元宮司区の子供さん方による楽の市(大分県無形民俗文化財)が奉納されました。

十月二十二日(火)

即位礼奉祝祭

天皇陛下が即位されたことを国の内外に宣言されることを寿ぎ斎行致します。

十一月十四日(木)

大嘗祭奉祝祭

天皇陛下が即位されて初めての新嘗祭である「大嘗祭」が斎行されることを寿ぐ神事。

毎朝午前六時 朝御饗祭

若宮八幡社また境内の和漢將軍社、祖霊社の神々様に朝ご飯を差し上げる神事です。

編集後記

紀田宮司のつぶやき

社報『金鷹山』第7号いかがでしたでしょうか。年に一回と言え、毎号内容に

苦慮しながら刊行しております。すこしでも若宮八幡社のことを知って戴きたいという一念でおりますので、ご指摘ご要望などご連絡賜れば有難く存じます。今号は、令和に御代替りして初めての刊行でもありますが、御皇室のことも記事にさせて戴きました。来年は半世紀ぶりに東京でオリンピックが開催されます。令和の御代が未永く佳き御代でありますよう、そして親の世代が素晴らしい日本を子供に引き継がれますよう痛感致します。



踐祚改元を祝して「招霊の木」を植樹



踐祚改元奉告祭